



高橋 秀彰 議員

ユニバーサルマナー検定の推進について

問 ユニバーサルマナー検定は、高齢者や障がい者への基本的な向き合い方等を学ぶ講座であり、共に支え合う共生社会の実現に向け、実践に生かすことが大事である。今後、市職員や市民への啓発を行いながら、ユニバーサルマナー検定の推進に取り組む必要があると考えるがどうか。

答（市長） 市民への推進として、ユニバーサルマナーに関する講

座の実施や、企業でのユニバーサルマナー検定の導入支援を検討していきたい。

答（総務部長兼危機管理監） ユニバーサルマナーの重要性を認識しており、職員への啓発の必要性を感じている。検定の資格取得については、所管部署と調整を図り今後検討していきたい。



生活困窮者自立支援制度について

問 市民からの生活相談の対応では、どんな理由、状態であ

うとも、支援の手を差し伸べ、そこに人が寄り添って、必要な支援につなげることが重要である。今後、努力義務の就労準備支援事業等も含め、取り組む必要があると考えるがどうか。

答（市長） 生活困窮者自立支援制度の推進は、非常に重要な取り組みであり、生活困窮者を地域社会から孤立させないよう、事業の推進を図っていきたい。

答（健康福祉部長） 現在、相談窓口月に20件程度の新規相談があるが、窓口に来られない方への対応手法、手段を確立する必要がある。また、就労準備支援事業は、事業所や専門職の確保が困難で現時点では未実施だが、今後は先進事例を参考に、実施に向け努力していきたい。



渡辺 松男 議員

マイタイムラインについて

問 災害の危険性を避難情報として伝えるが、情報だけでは人は避難しないことを前提に、どう対策を講じていくかが重要である。住民一人一人が家族構成や生活環境に合わせた自分なりの逃げ方を考えていないと逃げる力にはつながらない。災害のたびに指摘される住民の逃げ遅れは、逃げる気持ちがあっても実際に行動に移すことの難しさを示している。そこで重要な

が、災害時に個人がとるべき避難行動を時系列にまとめたマイタイムラインである。古河市の防災教育の現状とマイタイムラインの手法はどのように取り入れられているのか。また、今後の取り組みについて伺う。

答（教育長） マイタイムラインへの取り組みについては、平成30年11月末現在、家庭と連携し、取り組みを始めている学校が2校あり、平成31年度中に予定している学校も多数ある。全ての学校で取り組むよう今年度中に依頼していきたい。また、今後の取り組みとして、児童生徒の防災意識を高めるとともに、家族や地域との関わりを踏まえた防災教育を実施できるよう、各校および教育委員会と連携し

進めていきたい。

答（生活安全部長） マイタイムラインを普及するため、出前講座や水防説明会等において、有効性についての説明を行った。

今後はタイムラインの普及を図りつつ、マイタイムラインを一般の方が楽しく簡単に作成することができる逃げキッドを活用しながら、自治会や行政区レベルでの普及に努めていきたい。



《その他の質問》

・暑さ対策について